



金沢

水再生センター

KANAZAWA Wastewater Treatment Plant

概要

金沢水再生センターは、横浜市国際港都建設計画に基づく下水道整備計画の一環として計画されたもので、金沢区の全域と磯子区、港南区の一部からなる金沢処理区を対象とする水再生センターです。本処理区は、下水排除方式として分流式及び合流式下水道を採用しています。汚水は、直接または金沢ポンプ場を経て本水再生センターに流入し、A2O法による高度処理（一部系列にて標準汚泥活性法による高級処理）が実施され、消毒後富岡川へ放流し東京湾へそそがれています。

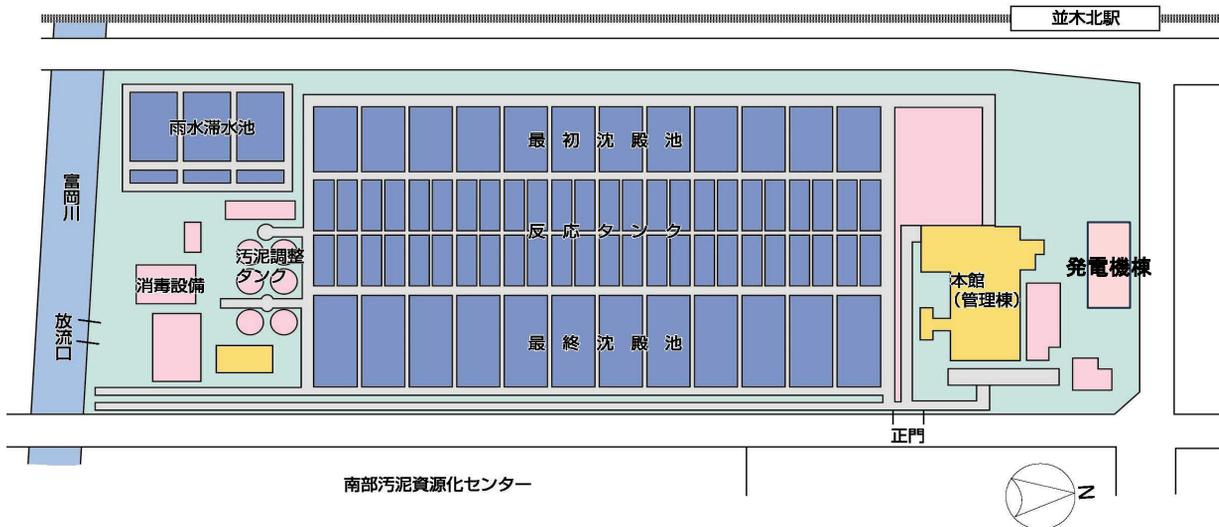
- 所在地 横浜市金沢区幸浦一丁目17番地
TEL 045-773-3096
FAX 045-776-1689
- 敷地面積 129,440m²
- 計画処理面積 4,913ha
- 計画処理人口 381,600人
- 計画処理水量 晴天時 221,900m³/日
雨天時 572,800m³/日
- 処理方式 A2O法による高度処理
(一部、標準活性汚泥法による高級処理)
- 放流水域 富岡川
- 運転開始 昭和54年10月
- 汚泥処理 南部汚泥資源化センターへ圧送して処理

- ご意見・お問合せ
gk-nambugesuido@city.yokohama.lg.jp

金沢処理区域



平面図



特色

金沢処理区内には金沢水再生センターのほかに中継ポンプ場として金沢ポンプ場、雨水排水ポンプ場として六浦ポンプ場があります。都市開発に伴う誘致企業の工場排水対策の一環として、鳥浜地区及び福浦地区にメッキ排水や含油排水等の工場排水を共同で前処理する施設があり、市街地の公害防止を図っています。また16年度にセンター内の一部において高度処理施設が稼働し、順次、高度処理化へ移行していきます。

センター内で処理された水は再利用水としてセンター内で利用するほか、近隣の南部汚泥資源化センターや資源循環局金沢工場へも送水して有効利用に努めています。また、道路や下水道管きよの清掃用水等として再利用水の販売、供給を行っています。

施設・設備概要

●主要設備

名称	構造数	能力等
沈砂池	巾3.2m×長27m×6池(分流2池、合流4池)	
最初沈殿池	巾12m×長34m×深3.4m×24池	
反応タンク	巾6.1m×長228m×深5.2m×12池	
最終沈殿池	巾12m×長50m×深2.6m×24池	
接触タンク	巾2.5m×長180×2池、巾2.5m×長135m×1池	
汚泥調整タンク	直径13.6m×深3.6m×6タンク	有効容量 520m ³ /タンク
雨水滞水池	巾20.9m×長39.4m×深7.5m×4池	滞水容量 21,300m ³
受電	特別高圧 66kV、2回線受電	契約電力 6.0MW
発電機	5,000kVA × 3、ガスタービンエンジン	総出力 15,000kVA
ポンプ	分流汚水 口径900mm×610kW×3、口径1350mm×1,300kW×1	総吐水量 1,961m ³ /分 (2,031m ³ /分) ()は計画
	合流汚水 口径700mm×430kW×2 (計画:口径700mm×430kW×1)	
	雨水滞水池 口径1,200mm×1,000kW×2	
	雨水 口径1,500mm×1,600kW×3	
送風機	横軸多段ターボブロウ	総吐出風量 3,268m ³ /分
	口径450/口径400×380kW×2、口径600/口径50×670kW×4	
	口径600/口径500×700kW×1	
	単段増速ブロウ	
	口径600/口径500×620kW×1	
再利用ろ過機	磁気軸受式高速電動機直結 単段ターボブロウ	ろ過能力 1,065m ³ /時・基
	口径250/口径200×160kVA×3	
再利用ろ過機	ろ過面積 6m ² × 7基	



●金沢水再生センター所管施設一覧

名称	所在地	敷地面積	計画排水面積	計画排水処理能力	運転開始年月日
金沢ポンプ場	金沢区海の公園8番地	14,710m ²	389.9ha	3,908m ³ /分 (65.14m ³ /秒)	昭和56年3月
六浦ポンプ場	金沢区六浦四丁目5番15号	3,000m ²	102.0ha	685.5m ³ /分 (11.43m ³ /秒)	昭和48年11月
鳥浜第一工場排水処理場	金沢区鳥浜町13番地13	1,096m ²	—	400m ³ /日	昭和48年4月
福浦工場排水処理場	金沢区福浦二丁目10番地14	10,552m ²	—	1,525m ³ /日	昭和57年5月
南部汚泥資源化センター	金沢区幸浦一丁目9番地	123,900m ²	汚泥処理能力：約14,700m ³ /日		平成元年11月